



何事も、その場に合った正しい自立的判断を！

～どこで、誰と、何をしてもリスク（危険）は伴います～

前回16号で、次のような内容の教訓をお知らせ・お願いしました。

日常の感染症対策の継続、そして今回の菓子事案再発防止のための規範意識の高揚、及びその分析から見える体質を公表・改善する事で、生徒・教職員・家庭が一体となり、あらゆる差別・いじめの未然防止につなげる事。さらに、一部通学路の現状を事例に想像力を働かせ、自立的判断でリスクを低減する実践力を養う事で、より安心・安全な日常生活を送ってもらいたい事。

そこで9日(火)、本校生徒指導に係る部会で次のような見解を確認しました。

今回の菓子事案、渦中の中心であった1年生には、これまでの環境を振り返ってみてあげる必要もあるのではないかと。入学後、間もなく長期の臨時休校・分散登校に見舞われ、教育合宿も中止。学習の進度を優先しがちになった事は否めない。「学ぶ学年」1年生として、大人に近く中学生のあり方を十分に学べないまま、現在に至った結果ではないか。3年生が卒業するまでの残り3週間、日常生活の中で焦点を絞り、上級生の“背中”や教職員・家庭の見守り支援で「小さな成功体験」を収めさせよう。自己肯定感を高めよう。

生徒会“絆”アンケート等の実態から、速やかに焦点を絞り込み、見守り支援を行います。

一方で、報道でも明らかのように、大分県立大分工業高校等で多数の新型コロナウイルス感染が判明しています。大分県教育委員会は、今回の事例から以下3点を教訓として挙げています。

- ①感染していても無症状もある事等から、新しい生活様式の必要性が十分に生徒に理解されていない。
- ②密閉された空間での感染リスクが高い行動を回避できていない（特にマスクを外しての飲食やカラオケ、部室、更衣室、トイレ等）。
- ③生徒間・教職員間で、マスクなしでの10分以上の会話があった事により、濃厚接触者と特定されるケースを回避できていない（特に部活動の後、授業中、昼食時、休み時間等の会話）。

既に当の高校では、数日間の臨時休校及び陽性者・濃厚接触者とされた人は2週間の自宅待機となる等、学校運営への影響も大きくなっています。本校では、幸いにも通常通りの生活が送れています。その事に改めて感謝の意を持ち、多少のストレスを感じてもそれを他人に向ける事があってはなりません。前号でも触れましたように、我慢できなくなる前に連絡や相談をお願いします。

以下、リスク低減のため、前号までにお知らせした内容の一部変更等の対応をご理解下さい。

【前々回の15号《卒業式の式次第》の一部変更について】

《前々号》

- ・卒業証書授与は、壇上では密にならないため、マスクは外して行う

《以下のように修正》

- ・壇上は密にならなくても、同じ空間を共有しているため、現段階ではマスクを着用する
但し、卒業生代表答辞は、マスクを外して行う事に今のところ変更は考えていない

【前回の16号《落石等による向陽台方面からの自転車通学》

の通学路変更に係る自立的判断について

その後も落石が見られます。また一部、イノシシ等野生動物出現と同時に落石があったとの目撃情報もあります。既に市教委を通じて、県土木事務所とも相談をしたところ、対策は現在検討中で、できれば別の通学路が望ましいとの回答とアドバイスを頂きました。そこで、以下の対応とします。

- 本校の通学路は、地区ごとに細かく限定せず「大きな通りで、夜は明るい道路」を通るようにしています。そこで、向陽台方面からの登校は、馬場方面に下っての迂回も可能とします。よって、現在の道を通るか、迂回するかは自立的判断でお願いします。どの道を通っても、リスクがゼロになる事はあり得ない事から、いずれにせよリスク回避の想像力を働かせましょう。
- 登校の際も右側の歩道を通る選択肢が考えられますが、吉松美濃辺の上り坂は狭い路側帯しかなく、見通しもよくない事から、対向車との正面衝突のリスクが高くなります。また、多くの生徒が2回にわたって本道を横断せねばならなくなり、お勧めできません。